

2026 ALL JA～東京コンテスト

この時期お約束のいつものアレです。今回は「いいかげんマンネリになってきたコンテスト活動にちょっとカツを入れたかも」というお話です。いつものように全力で読み飛ばしちゃってください。

JM1LZT 富山俊一

またもやこの春も日光の山奥だの、奥多摩だのにコンテストをやりに行ってきました。

毎度書いていますが、ワタクシの奥さんの誕生日ってのが4月27日でして、何年かおきにALL JAとカブることになっており、今年はコンテストの翌日の月曜日がその日でした^^ 27日が日曜日だった昨年に比べればまだマシではありますが、帰宅が月曜日になってしまうALL JA故、やはり家庭内SWRは高めなのは言うまでもありません。

；

実際のところ、家庭内のSWRを上げながら参戦するコンテスト、「本当にこれでいいのだろうか？」という自問自答を繰り返しながら、一方で「そこその結果を毎回手にするようになって当初の感激が減ってきちゃってる自分」にもいろいろ問いかけたりしました。「大きなリスク」を背負うからには、それに見合った「圧倒的な結果」を手にするまではちょっとやそっとの結果で喜んでちゃダメというのが結論。気合を入れなおして日光に向かったワタクシです。

いつもの日光の現場で相方のJO1CRAと合流し、アヤシさ満載のオッさん2人組は、いつもの調子でちゃっちゃと設営完了。

今回の(今期の)キーワードは「マンネリ脱出」ですが、まあ設備の方は当然のことながら全く変わり映えしません。変えられそうなのは(変えるべくは)精神面。まだまだ磨ける(磨かなければならない)オペレーションをどうするか。設備のグレードアップより難しい問題です。

時間帯ごとのビーム方向の適切な選択、CQを出すか呼びに回るか
かの選択が何といても大きな要素です。E スポやスカッターの発生に
どれだけ早く気付けるか、スカッターの場合、ビームはどちらに向ける
べきなのか、分秒単位の判断の積み重ねが最終結果に大きく影響して
きます。時間帯によって変わる「客層」を読み、CW の送信スピードを
どうするかも大切。後半ともなると焦る気持ちからスピードを上げた
くなりがちですが、客層を考えるとむしろ「呼びやすい速度」に抑
えた方がよかったです。しかもこれらの要素の組み合わせは実に多様
で、おそらく「模範解答」がない。経験とデータとカンで判断し続け
る 24 時間です。



毎度の日光の日光 2026@日光半月山

昨年は思いがけない強風に見舞われコンテスト中にアンテナの高さを下げたり、ビーム方向が思うに任せなかったりもしましたが、今年はそういうこともなく、万全の体制でもある分、言い訳も通用しません。出てきた結果は「その日の自分のベスト」として甘受するまで。

後日 JARL から公表された RAW スコア(審査前スコア)を見る限り、昨年よりひとつだけ順位が上がり M 部門で暫定 2 位。少なくとも同じ部門にあと一人、私より頑張れた方がいるわけで、マンネリとか言ってる場合じゃないと、気を引き締めなおしたのは、言うまでもありません。

さて、ALL JA から 1 週間も経たない 5 月 3 日は恒例の東京コンテスト。家庭内の「ほとぼり」も冷めやらず、コンテストそのものよりも緊張感があつたのは言うまでもありません f_~;

まあ、それでも「気をつけて楽しんどいで」って顔は笑ってるけど目は笑ってないモードで送り出してくれる奥さんには、ホント感謝しかありません m(_ _)m(この部分去年の原稿のコピペです)

昨年は辛うじて優勝できたわけですが、今年は 3 連覇がかかっています。自分で自分にプレッシャーをかけ、ここでもマンネリ打破を図ります。

最近すっかり定番になった前日の朝イチで浅間尾根駐車場に現地入りし領域確保。ゆっくりと設営して翌日の本番待ち。

今回も JH1LTR 古池さんがお見えになり、月夜見第二から参戦。さらにすっかりおなじみになった某有名コンテスターお 2 人もいらっしやお隣で 21.28MHz に参戦。コンテスト中はおよそ「会話」といえるようなものはないわけですが、その前後にある「同好の士との交流」は毎度楽しすぎます(^^)



もはや定番「集団運用」@浅間尾根駐車場

実は過去 2 年、全くの同スコア(11160 点)でしたが、今回はちょっとだけ増えて、177QSO 260 ポイント 495 マルチで 12740 点。ほんのちょっとだけ「マンネリ脱出」出来たのでしょうか？

果たして勝てたのか？JARL 本部主催のコンテストとは異なり、東京支部主催のコンテストは RAW スコアの公開はありません。

撤収作業をしながら一緒に戦ったお三方とよもやま話。

各々のスコアの成果の話はもちろん、互いの装備を見せっこしながら驚いたり感心したり。もちろん、年食って移動運用がづらくなってきたってハナシも(^o^) こうして年齢や職業を超え、いろいろな方と出会う度、無線やっててよかったと心底思います。

「昭和の無線オヤジ」の話は尽きないわけですが、今回の私のもう一つの(というか、コンテストよりも大切な?)ミッション、「数馬の湯で

舞茸の天ぷらそばを食べる」を果たすためにはぐずぐずしてはいられません。「プラチナチケット」な舞茸天ぷらの食券確保のために、撤収をあっという間に終えた古池さんが先に数馬の湯へ。

おかげさまで、今年もなんとか舞茸の天ぷらにありつくことができました♪本当に古池さんにはお世話になりっぱなしです。

「マンネリ脱出」を掲げ臨んだ春のコンテストシリーズ。果たして目標を達成できたのか、自分ではいま一つピンと来てませんが、少なくともそういう気持ちでことに臨み続けようとは思っています。

今回も両コンテストで交信していただいた 240 各局、本当にありがとうございました。毎度、みなさんの「清き一票」に支えられているワタクシです(^)/